

# Washington's Wonders

## ワシントンワインの魅力

様々なテロワールから生まれる2021年2022年の素晴らしい赤白ワインの紹介



ワシントン州のコロンビア・ヴァレーは、多様なテロワールを含む広大なワイン生産地であり、カリフォルニアに次ぐ米国最大のワイン生産地となっています。シアトルは涼涼で多雨な気候ですが、コロンビア・ヴァレーのあるカスケード山脈の東側では気候が異なります。コロンビア・ヴァレーのあるカスケード山脈の東側は、日照に恵まれ乾燥した気候で、雄大なコロンビア川の水によって豊かな大地が形成されています。

カベルネ・ソーヴィニヨン、シラー、メルロが常に主要品種の一つですが、カベルネ・フランからシャルドネ、ソーヴィニヨン・ブラン、リースリングまで、さまざまなワインも成功を収めています。2021年と2022年の赤ワインが市場に出回っていますが、生育期は驚くほど異なっていたものの、それぞれ傑出したワインを数多く生み出しています。

これが、前回のレポート（「ワシントンは健在」2024年3月31日）以来、ナパのオフィスで350近いワインをブラインド・テイस्टングで検討した私の結論です。1年前、私は**2021年**ヴィンテージに Wine Spectatorの100点満点で90~93点の予備

評価を与えましたが、その後150本以上の2021年をテイステイングした結果、総合的に**93点**と評価できるまでになりました。さらに、私はこれまでに約125本の2022年をレビューしており、これらのテイステイングに基づき、このヴィンテージの予備評価は89~92点で、ひとつ前のヴィンテージをわずかに下回るものとなりました。

2021年ヴィンテージは、ワイン栽培家**クリストフ・パロン**と彼の多くのワイン・ブランドにとって素晴らしいヴィンテージであり、**本レポートのトップ・スコア**となるHorsepowerホースパワー・グルナッシュ・ワラワラ・ヴァレー・Sur Echalasシュール・エシャラ・ヴィンヤード2021 (97点、133ドル)を生み出しました。Horse



power Syrah Walla Walla Valley Sur Echalas Vineyard 2021 (96点、\$133)は大胆で説得力があり、ハックルベリー、ブラックオリーブ、野生のジビエのアクセントがあり、一方で、クリストフ・パロンのリッチなCayuse カユース・シラー・ワラワラ・ヴァレー Bionic Frogバイオニック・フロッグ 2021 (96点、\$130)は生き生きとしたブラックベリーとハックルベリーの風味があります。

マット・レインヴァーンにとっても、また素晴らしい年であり、特にレインヴァーン・シラー、ワラワラ・ヴァレー・ストーンセンス (96点、115ドル) は素晴らしい出来栄でした。この洗練された非の打ちどころのない骨格を持つ赤ワインは、リッチさと緊張感を醸し出し、川の石、香ばしい肉、タブナードの風味を示します。

元NFL選手のシドニー・ライスは、ドシエ・ワイン・コレクティブがただの虚栄心によるプロジェクトではないことを証明し続けています。パートナーのティム・レニハンとワインメーカーのピロ・ナラヴァネとともに、ライスは生き生きとしていながら洗練された赤ワイン、ドシエ・シラー・コロンビア・ヴァレー2022 (95点、80ドル)をリリースしました。元ニューイングランド・ペイトリオッツのクォーターバック、ドリユー・ブレッドソーと彼のワイン造りのパートナー、ジョシュ・マク・ダニエルズも負けてはいません。ダブルバック・エステート・リザーヴ・ワラ・ワラ・ヴァレー2021 (95点、188ドル)は、ポルドー・スタイルのブレンドで、表情豊かで見事な骨格を持っています。

ワシントンの二つのベテラン・ワイナリーは、最新のワインでその実力を証明しました。1978年ヴィンテージで最初のワインをリリースした**Leonetti Cellarレオネッティ・セラー**は、2001年から二代目のワインメーカー、**Chris Figginsクリス・フィギンズ**が切り盛りしています。彼自身のポルドー・スタイルのブレンドでトップクラスのレオネッティ・リザーヴ・ワラ・ワラ・ヴァレー2021 (95点、160ドル)は、濃く威厳がありながら、豊かな骨格と洗練された味わいです。1978年創業のもう一つのファミリー・エステート、クイルセダ・クリークも二代目が経営しており、このワイナリーはワインメーカーのポール・ゴリツィンが30年以上にわたって導いています。クイルセダ・クリーク・カベルネ・ソーヴィニヨン・コロンビア・ヴァレー2021 (95点、250ドル)は、しなやかで美しいプロポーションを持ち、ブラックベリー、チェリー、モカの風味があります。



赤ワインでも白ワインでも、ワシントン州はアメリカで最もコストパフォーマンスの高いワイン産地と言えるでしょう。赤ワインでは、バーナード・グリフィンのメルロー・コロンビア・ヴァレー2022 (90点、17ドル)、シャトー・サン・ミッシェルのシラー・コロンビア・ヴァレー2021 (88点、15ドル)、カーランド・シグネチャーのカベルネ・ソーヴィニヨン・コロンビア・ヴァレー2022 (88点、9ドル)などがおすすめです。

白ワインでは、洋ナシ、トロピカルフルーツ、シナモンの香りがする、ふくよかでクリーミー、ボリューム感のあるマーサー・シャルドネ・ホースヘブン・ヒルズ・マーサー・ブラザーズ2023 (88点、22ドル)と、桃とメロンの風味がする、やや辛口でジューシーなパシフィック・リ



ム・リースリング・コロンビア・ヴァレー2023 (88点、11ドル)が、今マーケットで最もお買い得なワインと言えるでしょう。

2021年と2022年の栽培シーズンは対照的でした。2021年は記録上最も暑いシーズンとなり、うだるような暑さだった2015年ヴィンテージに匹敵、もしくはそれを上回りました。特に6月末には暑さのピークを迎え、太平洋岸北西部に記録的なヒート・ドームが発生しました。コロンビア・ヴァレーの地域では、摂氏47.7度の高温が4日間続きました。この時期、ブドウのヴェレゾン（色づき期）は数週間先だったため、ブドウはまだ青々としてしっかりといました。しかし、カベルネはこの時点で発育の重要な段階にあり、その影響で最大30%の収穫量が失われました。この損失は、1月の激しい凍結によるブドウの木へのダメージとも重なり、最終的に収穫時の収量が歴史的に低くなる要因となりました。

「6月の最後の10日間、ワラワラでは気温が摂氏約37.8度を超えました。これほど早い時期にそのような気温になるのは珍しいです。通常、このような気温は7月4日以降にならないと見られません。こんなに早く収穫が終わったのは初めてです」と、スライト・オブ・ハンドのワインメーカー、トレイ・ブッシュ氏は2021年について説明しています。

ワシントンのワインメーカーは、2013年、2014年、2015年と3年連続で暑いヴィンテージに見舞われたため、今では暑いヴィンテージに慣れていました。「これらのヴィンテージで学んだことをすべて21年に生かしました」とブッシュ氏は言います。「暑いヴィンテージは酸の抜けが早いので、我々にとっては本当に難しいのです。」

2021年の最大の懸念は、過熟と硬いタンニンの可能性でした。それは、房の重さが通常より軽く、ブドウが小さくて皮が厚かったからです。季節の後半に葉のキャノピーを厚く保つことと、抽出のバランスをとるためにセラーでより短時間の浸漬を行うことは、ワインメーカーが頼りにしているたった2つの方法です。

「2021年のワインは、本当に素晴らしいフレッシュさとバランス、そして凝縮感を示しています」と、Kヴィントナズのワインメーカー、チャールズ・スミスは語ります。「このワインには軽やかさも感じられ、それがとても魅力的です。風味豊かでありながら、文字通り重さを感じさせません」。

クリストフ・バロンも同意します。「間違いなく素晴らしい凝縮感があり、美しく熟したタンニン、素晴らしいアタック、口当たり、そして密度を備えています。今現在、このワインは非常に魅力的です。果実味が前面に出ており、今飲んで楽しむ





めますが、熟成のポテンシャルが非常に高いことがわかります。素晴らしいヴィンテージです。もっとたくさんあればと思います。」

**2022年**の生育シーズンは、まるで**ジキルとハイドのような性質**を持っていました。シーズン前半は異常に涼しく、夏の終わりから秋口にかけては暑い気候となりました。この年は、1月の凍結を含め、寒く雨の多い冬から始まりました。4月中旬には、異常な吹雪がコロンビア・ヴァレーを襲い、地域によっては気温がマイナス3度まで下がりました。このようなコンディションにより、芽吹きが2~3週間遅れ、開花まで冷涼な天候が続きました。6月下旬になってようやく平年並みの夏の天候が訪れ、10月には気温が摂氏約2.8度平年を上回りました。その結果、生育シーズンの遅れが取り戻され、収穫が始まりました。

チャールズ・スミスは、2022年のワインを「とても芳ばしく、フレッシュで余韻が長い」と評価しています。ブッシュは、このワインは2021年よりも**ボリューム感のあるテクスチャー**だと考えています。「すでに少し親しみやすくなっており、とても消費者に優しいヴィンテージだと思います。」**クリストフ・バロン**も同意見です。「2022年は2021年よりも若いうちから親しみやすく、よりソフトな口当たりで、とても楽しめます。**2021年よりも先に2022年を飲んでください。**」

Rating Washington Merlot, Cabernet and Syrah Vintages			
2022	89-92	An unusually cool first half of the season led to a hot late summer and fall; reds are full-bodied and generous	NYR
2021	93	Hottest growing season on record produced reds of power and density	Drink or hold
2020	90	A hot summer led to ripe, full-bodied reds; late-summer wildfires caused concern	Drink or hold
2019	94	Ideal growing season, except for an early October frost; reds are generous and polished	Drink or hold
2018	93	Cool autumn weather salvaged an otherwise hot year, making for full-bodied yet well-balanced wines	Drink or hold
2017	90	A cool, wet spring led to a hot summer, but moderate weather near harvest helped build expression	Drink or hold
2016	91	A warm spring gave way to a moderate summer, promising balanced but structured wines	Drink or hold

A score range indicates preliminary analysis based on barrel samples and/or a limited sampling; many wines of the vintage will not improve.  
Vintage ratings: 54-60, basic; 61-66, good; 67-72, very good; 73-78, excellent; 79-84, outstanding; 85-88, very good; 89-94, great; 95-100, exceptional; 101-106, not recommended. **Drinkability:** "NYR" means most of the wines of the vintage are yet to be released; "drink" means most of the wines of the vintage are ready to drink; "hold" means most of the vintage wines have yet to fully mature.

2021年の小作とは異なり、2022年シーズンは豊作となり、生産者とワインメーカーは驚きを隠せませんでした。ワインメーカーのクリス・ゴーマン氏は、この供給過剰が消費者に利益をもたらすはずだと語ります。「2022年の安価なワインには、非常に高価なワインが多く含まれています。レッド・マウンテンのカベルネが予想より30%多く入荷したからといって、The BullyやEvil Twinを1,000ケースも追加生産できるわけではありません。だからこそ、30ドルのワインであるThe Devil You KnowやOld Scratchに回すしかないのです。すべてが良くなるんですよ。」